

- ・機関及び学部:富山県立大学工学部
- ・所属ゼミ:林教養ゼミ
- ・指導教員:林 智
- ・代表学生:匝久楽夢 ウスマン
- ・参加学生:神戸一喜、竹内彰裕、尾野琢磨、林和樹、沖廉之介、本間七星、高野歩夢、平田綺菜、桂井航平、山地陽人、田島夢実、笠原匠人、縁筵碧斗、佐藤亜郎、山内拓海

【研究題目】高岡市 関係人口創出

ーオンラインによる高岡市関係人口創出ー

1. 課題解決策の要約

本研究では、日本人の若者および若年層の在留外国人を対象として、高岡市関係人口創出を試みた。活動を始めるにあたり、富山県立大学の学生を対象として高岡市に関するアンケート調査を実施した。その中の「高岡市に住んでみたいと思いますか」との質問に対し、「いいえ」と回答した割合が 71.9%にのぼった。理由については、「高岡がどんなところかよく知らないから」との回答があった。また、「高岡について知っていること」を自由記述で回答してもらったところ、「古城公園・雨晴海岸」などの観光名所があがる一方で、「駅前がシャッター街」などのマイナスイメージも見られ、若者に高岡の魅力が十分に伝わっていないことが分かった。また、近年富山県では外国人住民数が増加傾向にある。富山県の統計によると、富山県の外国人住民数は平成 31 年 1 月 1 日時点で 18,262 人と過去最多となっている。年代別では、20 歳代の若者の割合が突出している。これらのことから、本研究では日本人の若者および若年層の在留外国人を対象として、高岡市関係人口創出に取り組むこととした。

次に、活動のリソースとしてインターネットを利用した。コロナ禍にあり人と距離をとることを求められる昨今において関係人口創出に取り組むには、インターネットの活用が有効であると考えた。インターネット利用率は、富山県では 87.0%が利用しており、ほとんどすべての人がインターネットを利用している。これらのことから本研究では、活動をホームページにまとめ、さらにこれを LINE や Instagram とつなぎ、より多くの若者への周知活動となるような工夫を施した。

活動内容として、高岡産食材を利用したハラル料理教室を実施し在留外国人の参加を促した。また、若者に人気のある「マイクラフト」というオンラインゲームを利用した高岡市街地の再現に挑戦した。この活動は高校生との協働が実現した。

結果としてインターネットを活用したことで、遠隔地からのアクセスを得ることに成功した。また、オンライン上で楽しむことができるように工夫を施したことで、一度に複数人で楽しむことができるなど、多面的な楽しみ方ができるようになった。

2. 調査研究の目的

1. 「食」をテーマとした取り組みで、高岡市関係人口創出を図る。具体的には高岡産の食材を利用したハラル料理体験会を実施する。また、ハラル食材を中心とした輸入食材を豊富に扱う高岡市内の店舗を紹介する。これらの取り組みにより、「高岡で異文化を体験する」という、これまでとは異なる角度から高岡の魅力を発信する。
2. 若者に人気のあるオンラインゲームの一つである「マイクラフト」を利用し、高岡市街地を再現する。オンライン上で多くの若者が協力して携わることで、高岡市への興味関心を持つ若者を増やすことに挑戦する。

3. SNS などインターネットを活用することで、遠隔地からのアクセスを可能にする。また、若者が実際に高岡市を訪れる足掛かりを作る。

3. 調査研究の内容

- 5月21日(木)～ 富山県立大学学生・留学生・在留外国人(中高校生)を対象とした高岡市に関するアンケート調査
- 10月8日(木) マインクラフトによる高岡市街地の再現を開始
- 10月21日(水) タカポケ定例会参加
- 10月22日(木) 高岡市方面取材活動
森田農園(株)
高岡 ePark
- 11月2日(木) マインクラフト制作における高岡向陵高等学校との協働を開始
- 11月7日(土) オンラインによるハラル料理体験会
- 12月3日(木) 高岡市方面取材活動(オンライン)
月とカンパニオ
ザイカ
- 12月24日(木) 高岡向陵高等学校との合同活動報告会
高岡市役所都市経営課広域連携推進室担当者より講評を得る

4. 調査研究の成果

本研究では、「取材活動」、「オンライン料理体験会」、「マインクラフトで高岡市の再現」、「ホームページの開設」により、高岡市関係人口創出に取り組んだ。各取り組みについて、概要と結果を以下にまとめる。

4.1 取材活動

本研究と関連のある高岡市内の企業を訪問し、取材を行った。まず、高岡市今泉にある株式会社森田農園を訪れた。ここでは、モーツァルトの音楽を聞かせながらトマトを栽培するという、ユニークな方法を取り入れている。この方法により、より甘いトマト栽培が可能になった。また使用する機械のほとんどは経営者自らが考案したものだ。これらの方法で栽培したトマトにより、トマトのブランド化に成功した。

次に、高岡 ePark を取材した。この施設は近年話題になっている e スポーツの富山県初の拠点として、高岡市内にオープンした。ゲーミングパソコンやゲーミングチェアなど、設備は最新のものがそろえられており、だれもが e スポーツを楽しむことができるようにあらゆる角度から整えられている。例えば、懸賞がかかった e スポーツ大会には、全国から参加者が集まる。その一方で、地元の小学生を対象にした「マインクラフト」を用いたプログラミング教室も開催されている。

これらの取材活動での成果を生かすため、本研究では料理体験会・マインクラフトを用いた高岡市の街並み再現に取り組み、関係人口創出に生かした。



図1. 株式会社 森田農園



図2. 高岡 ePark

4.2 オンライン料理体験会

「ハラルフードと地元野菜で異文化体験」と題し、オンラインによる料理体験会を開催した。高岡市にはハラル認証を受けた食材を豊富に扱う店舗がある。また、高岡産のサツマイモ・トマトなどは、ハラル料理に利用することができる。今回の料理体験会は、高岡で異文化体験が可能であるという、新たな高岡の魅力を人々に情報発信する目的で開催した。またハラル料理をテーマとしたのは、射水市など高岡市周辺在住の外国人はムスリムが多いという特徴があり、ハラル料理に関しての情報を発信することで、ムスリムの人々が高岡市に足を運ぶきっかけとなるのではないかと考えたためである。さらにオンライン開催としたのは、実際に足を運ぶ必要がなく高岡の魅力を伝えることができること、遠隔地からの参加も可能であるという理由による。

結果として、体験会には富山県立大学留学生 4 名・高岡市周辺住民 9 名の参加を得た。参加には至らなかったが、富山市や砺波市の住民も興味を示してくれた。終了後のアンケートの結果および zoom によるオンライン料理体験会の様子を以下に記載する。

質 問	はい	いいえ
高岡市にハラル用食材を販売している店があることを知っていましたか	22.20%	77.80%
高岡産野菜が販売されている店を知っていましたか	55.60%	44.40%
高岡産野菜などを買いに高岡を行ってみたいと思っていましたか	88.90%	11.10%
今回の体験会は高岡をより深く知る機会になりましたか	88.90%	11.10%

表1 ハラル料理体験会後のアンケート調査結果 (n=9)

アンケート調査の自由記述欄には「高岡にハラルフードを扱う店があることを初めて知った。次も参加したい。」との感想があった。



図3. オンライン料理体験会

4.3 マインクラフトで高岡の街並みを再現

オンラインゲームである「マインクラフト」を用いて高岡市街地の風景をインターネット上で再現し、高岡市の関係人口創出を図ることを試みた。マインクラフトは10代から20代の若者に人気があるオンラインゲームである。各自のパーソナルコンピュータやスマートフォンを利用し、建物・鉄道・街並みをブロックを組み立てて制作し、楽しむことができる。また参加者を募り、多人数が協力して風景を再現することも可能である。本研究では、高岡向陵高等学校との協働が実現した。結果として、富山県立大学1年生5名による作品、および高岡向陵高等学校3年生24名による作品をホームページに掲載した。

作品を高岡市役所都市経営課広域連携推進室担当者、および取材に訪れた高岡 ePark 担当者に視聴をお願いしたところ、「今後の展開も期待できる楽しい事業である」との感想をいただき、好評であった。



図 4. マインクラフトによる高岡の街並み再現
左:「未来の高岡:雨晴海岸沿線を走る万葉線」

右:「新高岡駅(高岡向陵高等学校生徒作品)」

4.4 ホームページ作成

本研究による活動等をまとめ、高岡市の魅力をより多くの若者や在留外国人に知らせるため、ホームページ「たかおかミニマムツアー」を作成した。ホームページの概要は次の通りである。

- ① 「マインクラフト」で作成した高岡市の街並みの紹介
- ② 高岡市のおすすめスポットを掲載した地図
- ③ 高岡市の食材を利用したハラル料理の紹介、およびハラル料理を提供する店の紹介
- ④ 富山県立大学留学生を含む留学生向けガイドブック
- ⑤ 高岡市を活動拠点とする人・団体の紹介

ホームページ作成にあたり、工夫した点としては、「たのしむ・つながる」などのひらがな・カタカナ表記をできるだけ用いたことが挙げられる。これは在留外国人が閲覧した際に理解しやすくするためである。またホームページは、LINE や Instagram などの各種 SNS と連結させた。特に LINE は、特定のキーワードに反応する自動返信機能を活用し、若者の興味関心を惹きやすい設計とした。結果として各種 SNS により、遠隔地の居住者などへの周知が可能になった。アクセス数はホームページ公開から約 1 か月で約 300 となり、特にマインクラフトへのアクセス数は 100 を超えた。また Instagram は反響が大きく、関西方面某放送局のアナウンサーや首都圏在住の俳優からもアクセスを得た。



図 5. ホームページ概観

5. 調査研究に基づく提言

5.1 外国人が訪れやすい街づくり

外国人が訪れやすい街を作るために、まずやさしい日本語の表記を増やすことを提案する。本研究ではホームページの表記に平仮名やカタカナを用いたが、同様の取り組みを高岡市内の掲示板でも行うことで、外国人が高岡市を訪れた時の困り事が減ると考えられる。あるいは文字表記の代替として、写真やイラストの利

用も可能と考えられる。その他として、ムスリム向けの礼拝施設を設置することを提案する。アンケート調査や料理体験会で出会ったムスリムの人々のほとんどが、高岡市内に礼拝施設がないことを困り事として挙げていた。ムスリムは1日5回礼拝を行うという宗教的習慣があり、このための施設を整備することで、高岡を訪れることが容易になると思われる。

5.2 若者や若い経営者が集うことのできるシステムの構築

オンラインによる料理教室ではハラル料理をテーマにし、高岡で異文化体験が可能であることを示した。「食」は関係人口創出のためには重要なテーマの一つである。「食」をテーマとして、近年高岡市周辺で人口が増加しているベトナム人向けのイベントをオンラインで行う、ベトナム料理を提供する店を紹介するなどによって関係人口創出につながると考える。

本研究では、マイクラフトを用い若者がオンライン上で集うことのできる企画を提案した。オンラインで実施することで遠隔地からの参加も可能になり、その後に高岡市を訪れるきっかけとなると考える。今後は高岡eParkを拠点としたゲーム大会を現地・オンラインで同時開催することを提案する。多角的なイベント開催で、関係人口創出を促進することになると考える。

6. 課題解決策の自己評価

これまで述べできた取り組みについて自己評価を行い、課題点を挙げる。まず、必要に応じアンケート調査を実施し、回答に自由記述式回答を取り入れた。しかしこれは回答が多様化し集計が困難となった。また、回答の分析を行う時間が十分にとることができなかった。アンケート調査を実施する前に十分な準備が必要であった。

次に、ハラル料理体験会におけるアンケート調査について考察する。表1より、今回のハラル料理体験会は「高岡に行ってみたい。高岡をさらに知る機会となった。」との回答が90%近くになった。したがって、高岡産食材や高岡で購入できる輸入食材を利用した異文化体験の取り組みは、高岡の魅力の発信につながったと考えられる。一方で、課題として体験会の周知方法があげられる。今回はホームページ開設前の実施であったため、周知活動としては、スタッフの友人等への声かけ、大学内でのポスター掲示にとどまった。次回はより多くの人への周知が可能な方法を考える必要がある。

また、マイクラフトによる高岡市街地の再現について述べる。活動終了後に、携わった高校生を対象にアンケート調査を実施したところ、より綿密な現地調査が必要であったことが分かった。アンケート調査では、「マイクラフトによる活動で、高岡についてこれまでより知ることができましたか」との質問に、「知ることができた」と回答したのは、全体の29.2%であった。これを居住地別にみると、高岡市内在住者で27.2%、高岡市外在住者で30.8%であった。得られた数値にあまり差がなかったが、これは再現した場所が知名度が高いものだったためではないかと思われる。次回は、若者が関心を示すと考えられる場所を詳細に探る必要がある。一方で高岡市内在住者でありながら、「高岡をより知ることができた」と回答した生徒が27.2%存在したことは注目に値する。これは自分の手で作ることで、高岡市の魅力を再発見したのではないかと考えられる。また公開した動画については、パスワードを貼り各自がダウンロードして楽しむことができるような仕様になると、より一層の関係人口創出につながるのではないかと考える。

ホームページについては、限られた時間での制作のためコンテンツに多様性が欠けている。今後コンテンツおよびリンクさせるSNSを増やすなどして、ホームページの認知度を上げる工夫が必要である。